

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャレンジ・つながる・自立」を合言葉に、生徒の自立への力の育成と支援者の拡大につなげる学校づくりをめざす。
生徒一人ひとりが、安心して安全に学ぶことができる教育環境づくり、地域の人々から愛され信頼される学校づくりをめざす。

2 中期的目標

- 1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。
 - (1) 生徒の特性をふまえてそれぞれのコースの教育課程について必要な改善を行う。
 - *基礎・社会生活、ライフスキル、作業学習等の充実に取り組む。
 - *研究授業・公開授業等を奨励し、教職員が主体的に授業改善に取り組む環境を整える。
 - (2) 職業に係る授業を通じて、生徒のチャレンジする意欲を育む。
 - *各コースにおける生徒の自立にむけた取組みの充実を図る。
 - *学校内外の実習先等の開拓を進め、生徒それぞれの体験の場を確保する。
 - (3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画等の充実を図る。
 - *自立活動の長期目標に沿った支援計画を立て、生徒・保護者と目標の共有に努める。
 - *小学校等及び中学校等の個別の教育支援計画の引き継ぎ100%を目標とし、支援の経過を明確に示す。
- 2 支援教育力の向上
 - (1) 思春期における課題への支援、健康教育等の充実を図るとともに、教職員の専門性の向上を図る。
 - *専門家と連携した教職員による事例検討及び生徒・保護者を対象とした教育相談の充実を図る。
 - *性に関する指導に重点を置いた科目「ライフスキル」の指導内容の充実を図る。
 - (2) センターの機能の役割をしっかりと果たすとともに地域連携の充実に努める。
 - *堺市立支援学校・泉北地区の府立支援学校と連携し、地域支援の充実を図る。
 - *生徒の卒業後の自立を目標に、関係機関との連携を強化する。
 - (3) ICTを活用して支援教育力の充実を図る。
 - *ICT機器を活用した授業を推進し、視覚的支援の充実に努める。
 - *授業や教材等のライブラリ化に取り組み、教材の共有化と効率的な教育システムを構築する。
- 3 生徒が安心して安全に学ぶことができる学校の環境づくり。
 - (1) 生徒が自身の健康管理に努め、生徒同士がお互いに人権を尊重する学校づくりを進める。
 - *自身での健康管理と口と歯等の健康教育の充実を図る。
 - *生徒がお互いに認め合い、協力する心の育成に係る取組みに努める。
 - (2) 防災計画やBCPを柱に防災教育を計画的に推進し、危機管理体制を更に堅固なものとする。
 - *各種避難訓練を定期的実施し、生徒の安全教育を充実する。
 - *福祉避難所として地域と連携し、災害時に備えて必要な備蓄品等の整備に努める。
 - (3) 部活動、生徒（生活）指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を育成する。
 - *部活動の充実を図り、生徒の主体性・社会性・忍耐力を育む。
 - *生徒の規範意識及び集団生活の基礎となる力を育成し、自己肯定感の育成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【児童生徒】 回答数153名中123人(回答率80.4%:昨年度88.6%) 21項目すべてにおいて「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答が60%を超え、20項目で70%を超えた。全項目の平均は78%が肯定的な回答となっており、昨年度より増加している。</p> <p>昨年度は⑨「将来の生き方について考える機会がある」、⑩「先生は命の大切さや社会のきまりについて教えてくれる」について肯定的な上積みがなかったが、今回はそれぞれ68から78%、63から67%へと上昇した。引き続き、キャリア教育の意義づけや人権を大切に取る取り組みをすすめ、生徒の満足度を高めていきたい。</p> <p>今年度はコロナ渦により、行事等は十分に実施できなかったが、⑧「生徒会の行事や委員会の仕事は楽しい」、⑯「授業や行事で近くの学校の人と交流することが楽しい」といった項目は、それぞれ61から74%、63から67%と上昇した。生徒にとっては高いニーズがある教育活動であると認識し、今後も更に充実を図っていきたい。</p>	<p>【第1回(7月22日)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの様式について、他の学習グループのシラバスの閲覧や個別の指導計画への落とし込みは可能か。支援教育に不慣れな教員が参考にできるようになっているのか。 ⇒シラバスはフォルダで共有できる状態である。個別の教育支援計画を教育活動と連携させて活用するよう先生方に伝えている。 ・チームで取り組むたたき台にして時間をとって話し合っていく取り組みが進められたら、よいものになるのではないか。 ⇒チームティーチングは話すことが基本であるが、時間を作るのが難しい状況ではある。 ・コロナ対策予算活用で、タブレット購入されるとのことだが、万が一休業になった際の家庭学習のツールとしての活用はあるのか。 ⇒現在24台のタブレットがあり、12台を追加で購入予定。36台で授業を4展開することを考えている。 ・評価指標としてアンケートの肯定的回答率85%めざしたとして、到達できなかった時の理由のほうが大切である。到達できなかったところの改善点について話があってこそその評価である。

府立泉北高等支援学校

<p>【保護者】 回答数 153 名中 87 人（回答率 66.3%：昨年度 56.9%）</p> <p>アンケート全項目に対して 84.8%が肯定的な回答であり、昨年度に引き続き、保護者の満足度は高まったと考えられる。しかし、㉔「学校は日常の活動において、子どもの人権を十分に尊重している」については、92から83%に下降している。</p> <p>今年度は、体育大会や学習発表会などの行事が中止となり、参観日も例年より少なくなった。保護者に学校生活の様子をご覧いただき、教員と保護者の連携を深めることで相互の意識向上につながるため、さらにホームページや紙面を活用し、情報発信していくことが重要であるとする。</p> <p>㉕「学校の施設・整備・教材・教具は学習環境面で満足できる」については、例年通り 67.8%と下位に位置している。今年度 i-pad や電子黒板等を追加購入したが、更に ICT を活用した教育、情報リテラシー教育を充実させていきたい。</p> <p>【教職員】 回答数 85 名中 76 人（回答率 87%：昨年度 89.4%）</p> <p>アンケート全項目に対して 81.5%が肯定的な回答であり、41 項目中 35 項目（昨年度 24 項目）が 70%以上、39 項目（昨年度 34 項目）が 60%以上という結果となり、肯定的な意見が大幅に増加した。</p> <p>特に、教育活動に関するものでは、①、⑥、⑦、⑩、学校経営に関するものでは㉔、㉕、㉖といった項目で肯定的な回答の割合が高まった。</p> <p>これについては、生徒数の増加が収まり学校規模が一定となったこと、ベテラン教員の退職や転出が一定収まったことで学校全体が安定してきたことに加え、若手教員を中心とした学校組織づくり、個別の教育支援計画の活用と評価の改善、キャリア教育の充実などが根付いてきたことが反映されたと思われる。引き続きこれらの改革を進めていきたい。</p> <p>㉔「校外の研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている」については、唯一肯定的意見が半数を下回ったため、改善できるようにしていきたい。</p> <p>【まとめ】</p> <p>昨年度末から続くコロナ渦により、長期休業や学習活動への制限が続いた一年であったが、その中で生徒、保護者、教職員からのアンケートからは肯定的な意見が増加していることから、学校に対する信頼と今後の期待が表れていると考える。</p> <p>アンケートの自由記述欄には、様々な思いや考えが記入されていた。一人ひとりの意見を大切に受け取りながら、今後のよりよい学校運営のサイクルづくりに活かしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断のアンケートで、「わからない」という項目の回答は学校の様子が保護者に見えないからではないか。保護者は連絡帳が頼りである。学校での様子を具体的に書くことで「わからない」という回答が減るのではないか。 ・コロナ対応では、通学バスの密の状況が気になる。窓も常時開けられないし、対策をしてほしいと感じる。学生の兄弟姉妹がいる生徒も多数おり、感染が広がることも考えられる。 <p>⇒バス乗車前の検温なども検討したが、出発前の家庭での検温とした。引き続きのご協力をお願いしたい。毎日のバスの増便は難しい。</p> <p>【第2回（11月6日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応でマスクをすることになったが、マスクができない生徒はどれくらいいるか。 <p>⇒学年で2～3名はマスクをすることが難しい生徒がいる。その関係で今年度の校外学習の場所を決めるにあたって、マスク着用が必要になる場所は除外せざるを得なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で体調不良がみられた場合は、誰が対応するか？担任が付き添っての待機になるのか。 <p>⇒体調不良が見られた場合は、体温チェックや聞き取りは保健室で行い、その後は、別室で保護者の迎えまで、基本的には担任と待機する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各通学バスに携帯電話があるということだが、費用はどういう支払いになっているか。 <p>⇒費用は学校が負担している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の話があったが、陸上・ソフトボール以外は何があるか。 <p>⇒バスケットボール・木工・美術・ワープロ部また、期間限定で南中ソーラン・サッカー部がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画の新様式を次回の会で是非見てみたい。 <p>【第3回（1月15日）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートについて、生徒の回答は視覚支援によりイメージしやすいように工夫が必要。 ・コロナにより、福祉の現場から子どもが見えにくい現状がある。そういう意味では学校が唯一の見守り役であるため、家庭の情報を把握し地域とつながっていくことが重要である。 ・本年度はコロナにより PTA の主要な行事がほとんど中止となり残念である。今後はオンライン等の活用を含め、広報活動を工夫していく必要がある。 ・今年は情報不足のため、学校教育自己診断の保護者アンケートが答えられなかった。保護者に対する学校の情報提供についてもオンライン等を活用できないか。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (学診；学校教育自己診断の略)	自己評価(進捗)
1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。	<p>(1) 生徒の特性をふまえて、それぞれのコースの教育課程について必要な改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・社会生活、ライフスキル、作業学習等の充実に取り組む ・研究授業・公開授業等を奨励し、教員が主体的に授業改善に取り組む環境を整える。 <p>(2) 職業に係る授業を通じて、生徒のチャレンジする意欲を育む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コースにおける生徒の自立にむけた取組みの充実を図る。 ・学校内外の実習先等の開拓を進め、生徒それぞれの体験の場を確保する。 <p>(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用と充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の長期目標に沿った支援計画を立て、生徒・保護者と目標を共有に努める。 ・小学校等・中学校等の個別の教育支援計画を確実に引き継ぎ、支援の経過を明確に示す。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度に作成したシラバスに沿って基礎・社会生活、ライフスキル、作業学習等の授業を試行する。個々の生徒の個別の指導計画の充実を図る。 ・研究授業をお互いに見学し評価しあうことで、学校の教育力の向上に努める。統一感のある適切な評価に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コースで生徒の自立にむけた個別の目標を明確にし、指導の充実を努める。生徒が自身の将来の姿を想像できる教育活動とする。 ・実習先の開拓を進め、職場実習の機会を増やす。校内実習の運営にあたっては、地域の関係機関との連携を積極的に行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の長期目標を達成するために適切な短期目標を積み上げる形とする。生徒・保護者と協力して学期ごとに評価を行う。 ・中学校等からの個別の教育支援計画の100%引きつぎをめざす。小学校・小学部における個別の教育支援計画も合わせて求め、次の支援者につなげる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学診の生徒・保護者の肯定率 80%以上にする。 (生徒：H29;65%, H30;79%, R1;74%) (保護者 H29;77%,H30;97%,R1;87%) ・基礎・社会生活、ライフスキル、作業学習等をシラバスに沿って運営する。個別の指導計画の目標設定を学期初めに示し、学期末に適切な評価をしたか。 ・初任者、2年めの教員の研究授業等を実施し、外部講師からの助言を求める。個別の指導計画の目標に対する評価という観点を全体で共通理解できたか。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学診の生徒・保護者の肯定率 85%以上にする。 (生徒：H29;65%,H30;86%,R1;73%) (保護者 H29;85%,H30;82%,R1;92%) ・各コースの発達段階に合わせた学習グループで卒業後を意識した授業を5回以上行ったか。 ・新たな職場実習先を5か所以上開拓するとともに、教室を工場に見立てた校内実習を2回実施したか。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく運用を始めた個別の教育支援計画及び個別の指導計画について検証したか。 ・生徒、保護者と長期目標・短期目標を共有できたか。 ・中学校等からの個別の教育支援計画の提出率を100%にできたか。引き継ぎ時に小学校・小学部の個別の教育支援計画も合わせて受け取ったか。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連項目肯定率 生徒 77.5% 保護者 84.9%(△) ・作業部会により作業学習の内容について改善を図った。個別の教育支援計画について学期初めの目標設定と学期末の適切な評価が実施できた。(○) ・研究授業を実施し、評価の観点を共通理解できた。(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連項目肯定率 生徒 73.2%、保護者 88.5%(△) ・各コースで卒業後を意識した授業が実施できなかったため、キャリア教育の視点を踏まえた授業づくりが課題である。(△) ・新たな実習先を5か所以上開拓し、9月、2月に校内実習実施(◎) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運用についてPDCAサイクルの確立が課題(△) ・保護者と目標を共有(○) ・100%引継ぎ(○)

府立泉北高等支援学校

2 支援教育力の向上	<p>(1) 思春期における課題への支援、健康教育等の充実を図るとともに、教員の専門性の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家と連携した教員による事例検討及び生徒・保護者を対象とした教育相談の充実を図る。 ・性に関する指導に重点を置いた科目「ライフスキル」の指導内容の充実を図る。 <p>(2) センターの機能の役割をしっかりと果たすとともに地域連携の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堺市立支援学校・泉北地区の府立支援学校と連携し、地域支援の充実を図る。 ・生徒の卒業後の自立を目標に、関係機関と連携を強化する。 <p>(3) ICT を活用して支援教育力の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を活用した授業を推進し、視覚的支援の充実に努める。 ・教材等のライブラリ化に取り組み、教材の共有化と効率的な教育システムを構築する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会や職員研修を充実させる。教職員の共通理解や保護者への情報共有を効果的に行う。 ・社会性の向上・性教育に重点を置いた科目「ライフスキル」の授業のシラバスの作成と展開に努め、生徒が必要なソーシャルスキルの向上に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堺市の支援教育課と連携し校区の支援を高める。また、堺支援学校、和泉支援学校と連携して泉北地区の支援も継続する。 ・地域の就業・生活支援センター等の関係機関との連携に努める。地域の企業・作業所等の説明会を実施する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を有効活用する教員研修を実施し、授業での活用を増やす。校内の Wi-Fi 環境の構築を進め、HR 教室での情報教育の推進に努める。 ・校内の共有フォルダを活用して、教具・教材の共有に努める。業務上の書類の電子化を進め、分掌等の情報を管理する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学診の生徒・保護者の肯定率 85%以上にする。 (生徒:H29;63%,H30;88%,R1;73%) (保護者 H29;79%,H30;88%,R1;86%) ・思春期におけるさまざまな課題をふまえ、専門家の研修を学期に1回行ったか。日々発生する事象への対応について、校内で情報共有に努めたか。 ・科目「ライフスキル」を各コースごとに3年間の期間で積み上げるシラバスを今年度作成と試行をしたか。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに始まる堺市立小・中学校への訪問を10回以上行ったか。 ・生徒の状況に応じて関係機関との合同会議を実施したか。地域の企業・作業所等の説明会を本校で1回実施したか。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を有効活用した夏季研修を3回行ったか。全学年の授業で携帯電話のトラブル防止や情報モラルの育成について1回以上取り組んだか。 ・校務分掌での ICT の有効活用を図ったか。教科で教材等の共有フォルダの構築に努めたか。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連項目肯定率 生徒 79.6%、保護者 84.2%(△) ・日々生起する生徒指導事象について校内で情報共有するとともに、阪大教授を招いた事例検討会を2回実施した。大阪府警から講師を招き、SNSトラブルについて研修会を実施した。(◎) ・「ライフスキル」シラバスの試行実施(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で堺市立小・中学校訪問実施できず(-) ・関係機関合同会議(10/20 実施) コロナの影響により、企業・作業所等の説明会は実施できず(-) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用研修(6/18, 7/30)2回実施 各学年で情報モラルについて学習(△) ・公務分掌における ICT 活用、教科フォルダへの教材の共有を図った(○)
3 生徒が安心して安全に学ぶことができる学校の環境づくり。	<p>(1) 生徒が自身の健康管理に努め、生徒同士がお互いに人権を尊重する学校づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身での健康管理と口と歯等の健康教育の充実を図る。 ・生徒がお互いに認め合い、協力する心の育成に取り組みに努める。 <p>(2) 防災計画やBCPを柱に防災教育を計画的に推進し、危機管理体制を堅固なものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種避難訓練を定期的実施し、生徒の安全教育を充実する。 ・福祉避難所として地域と連携し、災害時に備えて必要な備蓄品等の整備に努める。 <p>(3) 部活動、生徒(生活)指導の充実を図り、生徒の自己肯定感を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の充実を図り、生徒の主体性・社会性・忍耐力等を育む。 ・生徒の規範意識及び集団生活の基礎となる力を育成し、自己肯定感の育成を図る。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が日々の暮らしの中で清潔感を重んじるように指導する。生徒が自身の健康状態を客観視できるように指導する。 ・生徒がお互いに人権を尊重する態度を養い、地域社会の一員として責任を果たすことの大切さの理解に努める。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の安全確保について定めた防犯・防災計画を教職員の共通理解とし、保護者にも説明し理解を求める。 ・堺市危機管理室や地域との連携を図りつつ、食糧備蓄を含めて福祉避難所としての役割を果たせるよう準備する。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の大会参加や各種検定受験など、生徒の課外活動の充実を図る。自己肯定感を高めることができる取り組みを増やす。 ・規範意識、他者と協力する気持ち、他者を思いやる心の育成に重点的を置く。周囲の生徒との交流に努める。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学診の生徒・保護者の肯定率 85%以上にする。 (生徒:H29;64%,H30;87%,R1;71%) (保護者 H29;84%,H30;88%,R1;91%) ・手洗い、うがいの励行に努めたか。全生徒が自身で日々の健康チェックをすることができたか。 ・生徒が協力して取り組む活動(クラス活動、各種行事)を充実できたか。生徒の人権に係る職員研修を各学期で1回実施できたか。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯防災計画に従い、安全に係る授業を3回実施したか。災害等の発生時に迅速に休校等の学校の判断を示すことができたか。 ・PTA の防災訓練及び研修を、PTA と協力しながら1回実施できたか。学校の食糧備蓄に努めたか。生徒の2次避難場所の設定ができたか。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に参加する生徒数を前年度より増やしたか。各種大会への参加を促したか。(前年度の参加率は65%) ・いじめ事象を発生しないように学期に1回以上 LHR でいじめについて考える取り組みをしたか。道徳意識を高める学習を教育活動に組み込むことができたか。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連項目肯定率 生徒 79.0%、保護者 86.0%(△) ・日々の健康チェック表の回収により、手洗い・うがい励行、日々の健康チェックができた(○) ・人権研修は講師の意向で2月に延期したが実施できた。(○) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防犯防災・安全に関する授業及び9/24,1/18, 防犯訓練実施できず(△) ・PTA 防災訓練実施。(1/19) 生徒の2次避難場所を設定した。(○) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により参加は減少(-) ・いじめ対策委員会を2回開催し事案に対応した。人権教育は1年のみ実施(△)
4 校務の効率化と働き方改革の推進	<p>(1) 分掌組織の改革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の週当たりの授業の持ち時数の軽減を検討する。 ・教頭、首席に集中していた学校運営に係る業務の見直しと分掌業務の見直しをする。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス展開数、教科の授業展開数を検証する。 ・学校全体の分掌業務を見直し、分掌単位で業務を再配分する。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の週当たりの授業の持ち時数を軽減することができたか。 ・分掌業務を見直し、校務の再配分ができたか。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業時間数軽減が課題(△) ・分掌業務の見直し、偏りの是正が課題(△)